

## アメリカ特集2024



©Stuart Mullenberg



©Washington.org



画像提供:カリフォルニア観光局



©オレゴン州観光局



U.S. - JAPAN  
TOURISM YEAR 2024  
日米観光交流年2024

# 日米観光交流年に合わせ 日本での活動を強化

## ブランドUSA

日本人選手の活躍によるMLB人気など、プラス要因もあり、日本人訪米者の今後のさらなる需要回復が期待されている。そんな中、2023年11月に日米両政府において2024年を「日米観光交流年\*」にすることで同意。現在、日米各自治体間の姉妹提携をはじめとする双方向による交流拡大を目指したさまざまな取り組みが進む。アメリカ合衆国の公式観光促進団体であるブランドUSAは、日米観光交流年に合わせて日本での活動を強化しており、アメリカへの旅行需要の本格的な回復を目指す。ここでは、アメリカへの旅行需要の現状やブランドUSAの日本市場での取り組みについて紹介したい。

\*日米観光交流年は2024年1月1日から2025年3月31日まで



## 日本マーケットの現状

### 日本は重要なマーケット 国別で英国に次ぐ第2位の地位回復へ

日本からアメリカへの訪問者数は、コロナ前の2019年で約370万人。アメリカにとって、隣国のカナダとメキシコを除き、国別で英国に次ぐ2位となっていた。米国商務省国際貿易局のデータによると、今年1～5月の訪米日本人は前年同期比52%の増加。アメリカ本土への旅行者数を見ると、2023年はコロナ前の2019年の55%まで回復している。ブランドUSA主催のミッションで来日したグローバル・トレード・ディベロップメント・ディレクター（アジア太平洋地区）のスージー・シェパー

ド氏は、「日本人にとってアメリカは韓国に次ぐ第2位の海外旅行先であり、ロングホールにおいては第1位。一方で日本からの訪米者数は依然としてトップ10に入っており、日本市場が我々にとって重要であることに変わりはない」と述べ、日本市場の重要性を強調する。

### 日本マーケットの回復が不可欠 ハワイやマイクロネシアの回復も必要

米商務省は、コロナ後のマーケット回復を目指すべく、「2027年の年間外国人訪米者数9000万人、消費額2790億ドルの達成」を目

標とした旅行観光戦略を2022年に発表している。ミッションに併せて来日した米国商務省旅行観光担当副次官補のアレックス・ラズリー氏は「9000万人は2026年に前倒しで達成できると見ている。そのためには日本マーケットの回復が不可欠」との姿勢を示す。

一方、コロナ後の日本マーケットの傾向について、「コロナ前は、日本人訪米者の42%がハワイ、39%がアメリカ本土を訪れていたが、現在その比率がハワイ36%、アメリカ本土55%と、その割合が大きく変化している」（シェパード氏）と説明。「アメリカ本土の回復はもちろんだが、ハワイやマイクロネシア（グアム・サイパン）の回復も必要」とのスタンスを見せた。

## ブランドUSAジャパンセールスミッション2024

### セールスミッション、2都市開催で32団体が参加 「日本市場への信頼と関心の高さの表れ」

ブランドUSAにとって、日本市場へ向けた大きな活動のひとつとなったのが7月に開催した「ブランドUSAジャパンセールスミッション2024」だ。今年は初めて1週間の期間を設け、東京に加え大阪も訪問。現地より観光局やサプライヤーなど32団体が来日し、過去最高だった去年の36団体に次ぐ規模での開催となった。期間中は、旅行会社向けの商談会やセミナー、ネットワーキングイベントなどを実施した。



「ブランドUSAジャパンセールスミッション2024」の様子（東京会場）

## GEP面接会を並行実施 今年末までの正式導入を予定

また今回のミッションでは、新たに「グローバル・エントリー・プログラム(GEP)」の面接会が並行して行われた。

GEPは、事前審査を完了した旅行者が所定の空港で入国する際に専用優先レーンの利用ができる事前入国審査プログラム。入国審査の列に並ぶことなく、自動キオスクを利用することで、指紋認証のみで税関申告まで完了する。グローバルエントリーの承認取得後は、GEPの一環としてTSA Pre✓®の資格を得ることができる。TSAプレチェックは、空港での手続きをスムーズにするために導入された、迅速なセキュリティチェックのためのプログラムで、条件を満たし、TSA(米国運輸保安局)によって選ばれた対象者は、専用のスクリーニングレーンに案内され、靴やジ

ヤケット、ベルトを外したり、荷物からノートパソコンを取り出す必要がないため、大幅な時間短縮が期待できる。

GEPは取得後5年間有効で、登録申請の際に100ドル(2024年10月より120ドル)が必要。既に米国市民やグリーンカード(永住権)保持者のほか、現在20カ国/地域を対象に導入されているが、日本については今年末までの正式導入を予定している。

ミッションに合わせて来日したGEPを管轄する米国国土安全保障省税関・国境取締局(CBP)トラステッド・トラベラー・プログラムズ課長補佐のクリスティーナ・ルナ氏は、「テクノロジーを駆使したプログラム。安全性を維持しながらスムーズな入国を実現した」と説



ミッションに合わせて来日した面々  
(左からブランドUSAグローバル・トレード・ディベロップメント・ディレクター(アジア太平洋地区)のスージー・シェパード氏、米国商務省旅行観光担当副次官補のアレックス・スズリー氏、米国国土安全保障省税関・国境取締局(CBP)トラステッド・トラベラー・プログラムズ課長補佐のクリスティーナ・ルナ氏)

明。今後は積極的な告知を行う考えを示し、「アメリカ渡航の多いビジネスマンだけでなく、リピーターのレジャー・トラベラーにも提案したい」と意欲を見せた。

## MLBプロモーション

### MLBの特別番組に協力 「MLB観戦+α」を提案、多彩なツアー造成を

ブランドUSAは、セールスミッションに加え、スポーツテレビ局「J SPORTS」の特別番組「MLBイッキ見!スペシャル ボールパークへ行こう」の制作に協力。前半と後半それぞれ1時間の番組で、ロサンゼルスやサンディエゴ、シカゴ、ニューヨーク、ボストンの各球場を訪問、MLB観戦だけでなく、各地の旅の楽しみ方も紹介する。本年、9月末まで定期的に再放送を行う予定だ。

MLB人気について、ブランドUSA日本事務所は、大谷翔平選手のような日本人トッププレーヤーを擁するメジャーリーグの人気は、日本人にとってアメリカを訪れる強い動機となっている、と説明。今回の特別番組に加え、JTBが日本におけるMLB公式旅



行代理店スポンサーとなるなど、動きが活発なことから、MLB観戦ツアーを促進する機会と捉えている。

## 共同プロモーション

### 旅行業界パートナーと組んだ 共同プロモーションを積極的に展開

ブランドUSAは、旅行業界パートナーとの共同プロモーションを積極的に展開している。現地体験型アクティビティ専門予約サイト「ベルトラ」を運営するベルトラ株式会社と共に、多彩なアメリカの魅力を伝える共同プロモーション「Explore America」を展開。同キャンペーンは、ブランドUSAが昨年実施したアメリカ旅行の販促アイデアコンテスト「ゴールド・ラッシュ:ブランドUSAマーケティング・チャレンジ」において、ベルトラ社が企業部門グランプリを受賞したキャンペーン案を実現化したものだ。

ベルトラ社の公式サイト内の特設セクション「Explore America」にて、日本に姉妹都市関係有するアメリカ9都市の魅力を紹介しつつ、同社が販売する9都市内の現地ツアーやアクティビティを訴求する内容となっ

ている。全3回にわたって展開する同プロモーションでは、ロサンゼルス、ヒューストン、ボストン、ホノルル、ニューヨーク、マイアミ、シアトル、ニューヨーク、シカゴを本年4月から一年間にわたって順に紹介する。

その他、観光地や宿泊施設のおすすめ情報を提供する旅行情報サイト「RETRIP」を運営する株式会社RETRIPと共に、さまざまなアメリカの観光地を多彩なテーマに沿って紹介する特集記事



ベルトラとの共同プロモーション「Explore America」。現在は第2弾を展開中  
[www.veltra.com/jp/special/north-america/usa/explore-america](http://www.veltra.com/jp/special/north-america/usa/explore-america)

を制作。これまでにポートランド、ロサンゼルス、シカゴを特集。この秋には、デンバー、ニューヨーク、シアトルの特集ページも公開予定だ。

## ブランドUSAの販促ツール

### トリッププランナーや画像／動画ライブラリーなど 商品造成に有用な販促ツール



ブランドUSA トラベルトレードウェブサイト  
[traveltrade.gousa.jp](http://traveltrade.gousa.jp)

トリッププランナー(上)や  
メディアパレット(画像／動画ライブラリー、要登録／下)など提供

ブランドUSAでは定期的に行っているセールスミッションやセミナー・ワークショップ、キャンペーンを通じて日本の旅行会社に対し、主要なゲートウェイ以遠の旅行先を含むより多彩なツアー商品の開発を促す取り組みを続けている。販促ツールとして、旅行業界向けウェブサイトにあるツールキットや、トリッププランナーといったオンラインサポートを提供している。



地方都市でのセミナーも実施



旅行業界向けFAMツアーも実施

### アメリカの公式観光ガイド 「Go USAガイド」



デジタル版の  
ダウンロードはこちらから



## その他取り組み

### 現地法人とオペレーターとのマッチングも デジタル広告で一般消費者に訴求

また「日本の旅行会社の現地法人と在米オペレーターをつなぐプラットフォーム」(シェパード氏)として、マッチングイベントを現地法人の多いニューヨークで実施。今後は同じく現地法人が集まるロサンゼルスでの開催も予定している。

他にも、今年4～6月には、一般消費者向けのグローバルキャンペーン「すべて体験しよう」を、デジタル広告を中心に展開。今年後半にも同様のキャンペ

ーンを計画する。またオンライン旅行会社(OTA)や旅行会社と組んだプロモーションも順次展開していく。

また、本年7月15日付けにて、ブランドUSAの新社長兼最高経営責任者(CEO)に、フレッド・ディクソン氏が就任し、ブランドUSAは新体制の下、次の成長段階に向けた準備を推進することとなる。観光業界における30年以上の経験を持つ同氏は、今後ブランドUSAを牽引し、デスティネーション・マーケティング組織の世界的なリーダーとしての地位を強化する態勢を整えている。



ブランドUSAの社長兼最高経営責任者(CEO)に就任したフレッド・ディクソン氏

# ツーリズムEXPOジャパン2024

今年はアメリカ方面から37団体出展  
日米観光交流年シンポジウムも開催

今年9月に開催されるツーリズムEXPOジャパン2024には、アメリカ方面から37の団体が出展する予定だ。

## 参加団体

1. カリフォルニア観光局
2. ロサンゼルス観光局
3. ヨセミテ・マリポサ観光局
4. グレーター・バームスプリングス観光局
5. ワシントン州観光局
6. シアトル観光局
7. ポートランド観光協会
8. シカゴ観光局
9. ミシシッピ・リバー・カントリーUSA
10. ディスカバーニューイングランド
11. グレーター・マイアミ観光局
12. デルタ航空
13. ハーツレンタカー
14. スポーツ・トラベル・アンド・ツアーズ
15. ハワイ州観光局
16. アウラニ・ディズニー・リゾート&スパ コオリナ・ハワイ
17. シルク・ドゥ・ソレイユ アウアナ
18. ハレクラニ
19. ヒルトンハワイ
20. ハイアット セントリック ワイキキビーチ
21. ハイアット リゾーツ ハワイ
22. イルカ ハワイ
23. カ・ライ・ワイキキビーチ、LXRホテルズ&リゾーツ
24. クアロア・ランチ・ハワイ
25. アウトリガー・リゾーツ&ホテルズ
26. ポリネシアンカルチャーセンター
27. プリンスリゾーツハワイ
28. タチバナエンタープライズ
29. ザ・カハラ・ホテル&リゾート
30. ザ・リッツ・カールトン・レジデンスワイキキビーチ
31. ワイキキ・コレクション - マリオット・リゾーツ・ワイキキ
32. ワイカイ・サーフ & ウォーターアドベンチャー
33. ウェットアンドワイルドハワイ
34. グアム政府観光局
35. マリアナ政府観光局
36. The Visa Waiver Program Powered by ESTA
37. ビジットUSAコミッティ ジャパン

※8月20日時点(出展者は変更になる可能性あり)

## 日米観光交流年シンポジウム

2024年5月にロサンゼルスで行われた第1回に続き、「ツーリズムEXPOジャパン2024」の開催に合わせ、第2回目のシンポジウムの開催を予定。アメリカを代表するツーリズム・サプライヤーが参加し、日本からの渡航需要の回復を早期に達成すべく、日本からの渡航需要の回復のスピードを早めるために実施している施策および今後のプランについて、パネルディスカッションが行われる。

**開催日時 ● 9月27日(金) 16:45-18:00**

**主催 ● 日米観光交流年ワーキンググループ**

(観光庁、在日米国大使館、ブランドUSA、一般社団法人 日本旅行業協会、日本政府観光局)

**登壇者 ●**

- ディズニー・ディスティネーション インターナショナル
- ハワイ・ツーリズム・オーソリティ
- ポートランド観光協会
- グレーター・マイアミ観光局
- (モデレーター) ブランドUSA



U.S. - JAPAN  
TOURISM YEAR 2024

日米観光交流年2024



ロサンゼルスで開催された第1回シンポジウムの様子。日米の政府関係者、観光関係の団体、企業などの関係者が集まり、日米双方の観光促進について意見交換が行われた。



「ティアナのバイユー・アドベンチャー」がオープン

# ますます進化するアメリカディズニーリゾート 今も、これからもワクワクが止まらない

フロリダ ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートとカリフォルニア ディズニーランド・リゾートでは、新しいアトラクションが続々と登場している。さらに、今年8月にカリフォルニアで開催されたファンイベントでは、今後の拡張計画も発表された。進化が止まらないアメリカのディズニーリゾート。今も、これからも、最先端のディズニーマジックから目が離せない。

## フロリダとカリフォルニアで 「ティアナのバイユー・アドベンチャー」 がオープン

映画『プリンセスと魔法のキス』をテーマにした新アトラクション「ティアナのバイユー・アドベンチャー」が、今年6月にウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートにオープン。さらに、11月15日にはカリフォルニア・ディズニーランド・パークにも登場する。

ゲストは、映画に登場するプリンセス・ティアナ、ママ・オーディ、ルイス、そしてカワウソ、ウサギ、アライグマ、ビーバー、カメなどの新しい友だちと一緒に、ニューオーリンズのお祭りの音楽と興奮に包まれたスリリングな冒険を楽しむことができる。

このアトラクションには数十ものオーディオアナマトロニクスで再現されたキャラクター達も登場。15メートルを落下するスリル満点のアトラクションだ。映画を観てから乗ると世界観も楽しめるのでお薦めだ。

## ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート エプコットがパワーアップ

2021年に開園50周年を迎えたフロリダのウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートでは、そのセレブレーション以降も続々と注目アトラクションが登場している。

2022年5月には、「ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー: コズミック・リワインド」が開園50周年記念として誕生した。大ヒット映画『ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー』の壮大

な世界観を再現した、スリリングなコースターアトラクションだ。

このアトラクションは、ディズニーのコースター史上初めて後向き発進で、かつディズニー初となる360度回転するオムニコスターでもある。

また、エプコットのワールド・ショーケースのフランス館（バビリオン）には、ディズニー&ピクサー映画『レミーのおいしいレストラン』の世界に入り込み、ねずみサイズになってキッチンを駆け回るアトラクション「レミーのおいしいレストラン・アドベンチャー」もオープンしている。

そのエプコットでは、数年にわたって実施されてきた大規模イノベーションが完了した。昨年には「モアナと伝説の海: ジャーニー・オブ・ウォーター」やウォルト・ディズニーの像が設置



ジャーニー・オブ・ウォーター

された「ドリーマーズ・ポイント」が完成。今年6月にはパーク中心地に「コミュニケーションプラザ」と「コミュニケーションホール」がオープンした。

「コミュニケーションプラザ」の屋外ステージでは、季節によってさまざまなショーが一日数回

上演され、「コミュニケーションホール」では新しいグリーティング会場「ミッキー&フレンズ」も設置されている。

このほか、マジックキングダム・パークのトゥモローランドには、昨年4月に「トロン・ライトサイクル・ラン」がオープンした。ゲストは、チーム・ブルーの一員として高速のライトサイクルに乗り込み、コンピューターに支配された暗い世界をスリリングに駆け抜ける。ディズニーテーマパーク最高のスピードを誇るコースターだ。



トロン・ライトサイクル・ラン

## ディズニーランド・リゾート 2025年は開園70周年

1955年にウォルト・ディズニーが自ら手掛け完成まで見届けたカリフォルニア州アナハイムの「ディズニーランド・リゾート」は2025年に開園70周年を迎える。

王道のディズニーの物語から最新作、ディズニー・ピクサー映画の世界を楽しめる「ピクサー・ピア」や「カーズランド」、スター・ウォーズファンは必見の「スター・ウォーズ: ギャラクシーズ・エッジ」、そして、スーパーヒーローの世界に没入できる「アベンジャーズ・キャンパス」。4つのエリアは誰からも愛されるアトラクションやショーばかり。これらのエリアがすべて徒歩圏内で楽しめるのもディズニーランド・リゾートの特徴だ。



カースランド  
©2024 Disney/Pixar



アベンジャーズ・キャンパス  
©2024 Disney ©2024 MARVEL



スター・ウォーズ：ギャラクシーズ・エッジ  
©2024 Disney © & TM 2024 Lucasfilm Ltd.

さまざまなディズニーマジックが詰まったディズニーランド・リゾート。その魅力を紹介するイベント「ディズニーランド・リゾートで100のできること」が、今年9月23日～9月29日の期間、渋谷駅地下二階の「PickUpランキン渋谷ちかみち」で開催される。

### 今後の拡張計画も明らかに 新しいアトラクションも続々と登場予定

ウォルト・ディズニー・カンパニーは今年8月に開催されたファンイベントで、海外ディズニーパークの拡張計画を発表した。

フロリダのウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートでは、マジックキングダム・パークの拡張によって、ピクサー映画『カーズ』が、フロンティアランドの新たなエリアに登場する。同じく、マジックキングダムでは、ディズニーヴィランズの新テーマランドを建設する工事がすでに開始しており、2つのアトラクション、ダイニング、ショッピングが揃うことになる。

ディズニー・アニマルキングダムの新テーマランド「トロピカル・アメリカ」には、『インディ・ジョーンズ』と『ミラベルと魔法だらけの家』に基づいたアトラクションが2027年にオープンする予定だ。

また、ディズニー・ハリウッド・スタジオでは、『モンスターズ・インク』のテーマランドも誕生する。ディズニーパーク初の吊り下げ式コースターが新設される計画だ。

カリフォルニアのディズニーランド・リゾートでも新しいエリアやアトラクションも登場。ディズニー・カリフォルニア・アドベンチャーでは、アベンジャーズ・キャンパスに新たに2つのアトラクションが追加され、エリアは現在の2倍に拡張される。

さらに、映画『アバター』の世界がスリリングな手法で、アクション、興奮、驚きを体験できる新アトラクションとして登場する。このアトラクションは、第2作目『アバター：ザ・ウェイ・オブ・ウォーター』からインスピレーションを得たものだ。



モンスターズ・インクコースターのコンセプトアート



アバターのアトラクションのコンセプトアート

このほか、ディズニーランド・パークのメインストリート・オペラハウスでは、ウォルト・ディズニーの生涯を題材にした新しいショー「ウォルト・ディズニー - マジカル・ライフ」を上演。ウォルト・ディズニーの初のオーディオ・アニマトロニクス・フィギュアが登場する。

### 日米観光交流年でキャンペーンも展開

2024年は「日米観光交流年」。これを記念して、現在アメリカのディズニーパークを訪



れる日本人旅行者に特製パスポートケースをプレゼントするキャンペーンを展開している。

期間は、2025年3月31日日本出発分まで。キャンペーンを取り扱う旅行代理店から、カリフォルニアのディズニーランド・リゾートでは2デー以上の「ディズニーランド・リゾートテーマパーク・チケット」、フロリダのウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートでは4デー以上の「ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートテーマパーク・チケット」の購入者が対象となる。

Walt Disney World  
Resort in Florida



Disneyland  
RESORT  
IN CALIFORNIA



### ディズニー公式YouTubeも要チェック

ディズニー公式YouTubeの「パーク&リゾート」も必見。人気クリエイターのKevin's English Roomが案内するウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートの紹介動画や、ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートやカリフォルニアディズニーランド・リゾートの早わかり公式動画などリゾートの理解に役立つ動画が盛りだくさんだ。



As to Disney artwork, logos and properties:©Disney

太平洋に面したアメリカ北西部に位置するオレゴン州。長く美しい海岸線、万年雪を冠する最高峰のマウント・フッド、玄武岩の断崖が連なるコロンビア川渓谷など、アメリカらしい雄大な自然に恵まれている。その自然が季節ごとに異なる顔を見せてくれるのも、オレゴン州が人々を魅了している要因の1つだ。州内にはワイナリーやブルワリーが多く、豊かな食も大きな魅力。自然と共生し、先住民の文化も尊重するオレゴニアンと同じように、ユーモアと冒険心のある人にとって、オレゴン州の旅は忘れられないものになるだろう。



# 自然と人が美しく共生するオレゴン州

## 海岸線に森林、渓谷、食、文化など“アメリカ”らしさの宝箱

### 日本からオレゴン州へのアクセス

日本からは、シアトル、サンフランシスコ、ロサンゼルス、そしてバンクーバーを含めた西海岸の主要都市で乗り継いでアクセス可能。特にシアトル/ポートランド間は飛行時間が約1時間と非常に便利だ。オレゴン州にはポートランド国際空港を含めて7つの空港があるので、これらを利用してオレゴン州へアクセスすることも可能だ。

## オレゴン州の7地域

### 01 オレゴン・コースト

全長584kmにおよぶ海岸線沿いには、ビーチや岩石群が並ぶ風景に加え、灯台や漁村も点在。ドライブすることで景観をさらに楽しめる。



### 02 ポートランド地域

美食の街、バラの街、DIY・工芸品の街として知られるオレゴン州最大の都市は、公園や庭園も整備され、自然と都会のコントラストが見事。



### 03 ウィラメット・バレー



ピノ・ノワールで有名なオレゴンワインの一大産地。500軒以上のワイナリーが存在し、テイスティングも楽しめる。州都セーラム、大学都市ユージーがあるのもこのエリア。

### 04 オレゴン南部



クレーターレイク国立公園があり、世界最大のダークスカイ・サンクチュアリが広がる南部。アシュランドはシェイクスピア・フェスティバルの開催地として知られる。

### オレゴン州の旅行をオススメする3つの理由

- 消費税がなくショッピングを楽しめる**  
アメリカ合衆国内で日本の消費税に相当する税金がかからない州は5つしかなく、オレゴン州はその1つ。お土産や旅の記念品を購入するならオレゴン州を旅行中が断然お得。
- 米国らしい自然が豊かな州**  
米国で最も深い湖があるクレーターレイク国立公園をはじめ、250以上の州立公園があるアメリカらしい雄大な自然が豊かなオレゴン州。アウトドアアクティビティも盛んだ。
- 世界最大の星空保護区**  
オレゴン州は光害が少なく、星空観察スポットとしての注目度も上昇中。2024年3月には州南部のレイク・カウンティが、世界最大の「ダークスカイ・サンクチュアリ」に認定された。

### 05 マウント・フッド&コロンビア川渓谷

州の最高峰マウント・フッドがあり、その麓には果樹園が多く集まるのどかなエリア。国立景勝地である渓谷沿いの断崖絶壁や落差の大きな滝を見ながらのハイキングなど、ポートランドから日帰り可能な場所で米国の大自然を満喫できる。



### 06 オレゴン中部

カスケード山脈が織りなす美しい景色を満喫できるアウトドアアクティビティのメッカ。観光の拠点にするなら、クラフトビールの醸造所が多い街のバンドがおすすめ。



### 07 オレゴン東部

東部エリアは、曲がりくねった川や峡谷、高山など広大な自然が広がりアドベンチャーを楽しめる。先住民など祖先たちが歴史を紡いできた土地でもある。



写真提供:オレゴン州観光局

アメリカ北西部に位置するオレゴン州の最大の都市がポートランドだ。全米屈指の「住みたい街」として人気で、クリエイティブシティや美食都市として米国内外に広く知られてきた。今ではクラフトビールにコーヒー、ドーナツなどの食文化や自然との共生、ものづくりの街としても注目されている。地元の人に溶け込み「暮らすように旅をする」と、この街の魅力の本質が見えてくる。



©Travel Portland

# 「暮らすように旅をする」が最も似合う街 ポートランド

米国屈指の「住みたい街」には訪れた人も楽しめる要素が満載

## Food culture

### 際立つ豊かな食文化

ポートランドは豊かな食文化を誇る街だ。その1つがクラフトビール。市内に70軒以上のブルワリーがあり、その多くでクラフトビールを味わえる。日本でも人気となったサードウェーブコーヒー発祥の地のひとつでもあるポートランドは、まさにコーヒーの街。農家から豆を直接仕入れ、自家焙煎にこだわるカフェは少なくない。米国のソウルフードのドーナツも、ポートランドは全米随一の人気。さまざまな種類のドーナツを楽しめる。

市内に点在する固定式の屋台「フードカート」もポートランドらしい風景だ。屋台が集まる「ポッド」という場所は地元の人々の憩いの場であり、世界中の料理を味わいながら、地元の人との新たな交流が生まれるかもしれない。

地産地消の意識が高いのもポートランドの特徴。ファーマーズマーケットでは、ポートランドから100マイル(約160km)圏内で生産された食品のみが販売されている。



©Stuart Mullenberg

## Nature

### マウントフッドが見下ろす自然と共生する街

自然と共生するポートランドの市内には200以上の公園があり、特徴が異なるガーデンも点在。「バラの街」でもあるポートランドのローズガーデンは、100年超の歴史を持つ全米最古の公立バラ試験場で、一万株のバラが咲き乱れる園内からのダウンタウンの眺めも見事だ。



©Justin Katigbak, Travel Portland

ポートランドを見守るようにそびえるのが、オレゴン州最高峰のマウントフッドだ。地元の人々から愛される山で、ハイキングやキャンプ、カヤック、冬はスキーやスノーボードなどが楽しめる。

## Transportation & Bicycle

### 充実した公共交通機関と自転車に優しい街

MAXライトレール(5路線)とストリートカー(3路線)という路面電車が市内を走っている。路線バスも充実しており、低料金で利用でき車椅子にも完全対応している。市内観光なら公共交通機関と徒歩だけで十分に楽しめる。

ポートランドは「バイクシティUSA」と呼ばれるほど自転車に優しい街でもある。電動自転車シェアプログラム「バイクタウン」により旅行者も自転車でも市内を巡りやすい。



©Justin Katigbak



©Jon Kraft

## Manufacturing

### ものづくりは新たな街のアイデンティティ



©Stuart Mullenberg

アーティストや起業家が多く住むポートランドは、米国のものづくりムーブメントを牽引する街だ。市内各所で高度な技術を持つ職人たちがさまざまな物を生み出している。

ポートランドには物を大切にする文化があり、これが現代のDIYやサステナブルなライフスタイルと融合。DIYを体験できるバーなども登場し、DIYはこの街の新たなアイデンティティとなっている。

## Event

### イベントカレンダー

1月	ポートランド・ミュージック・マンス
2月	ポートランド・ウィンターライト・フェスティバル PDXジャズフェスティバル
3月	チケット・トゥ・ダイン
5~6月	ポートランド・ローズフェスティバル
6月	マイ・ビーブルズ・マーケット(12月にも実施)
7月	ウォーターフロント・ブルース・フェスティバル ポートランド・プライド・フェスティバル&パレード
7~8月	スニーカーウィークPDX
9月	アート・イン・ザ・パブル
10月	ポートランド・マラソン
11月	ポートランド・ブック・フェスティバル
12月	クラフティ・ワンダーランド ホリデーセール

ポートランドでは1年中各種イベントが行われている。例えば2月のポートランドジャズフェスティバル、5~6月のポートランドローズフェスティバル、9月のアートインザパブル、10月のポートランドマラソンといったように、多様なジャンルのイベントが開催されている。

# 羽田からアメリカ全土へ、スムーズにアクセス



## CHECK POINT

### デルタ航空のおすすめポイント

**POINT 01** すべてのフライトが羽田発着  
充実の米国内線ネットワークで米全土をカバー



デルタ航空の東京発着のフライトは、すべて都心からのアクセスが至便な羽田空港を利用。ホノルルを含むアメリカ6都市へ直行便を運航、北米各地だけでなく、中米やカリブ海、南米各地もムスムーズに乗り継ぎ可能だ。

**POINT 02** 最新鋭の機材を投入



羽田から米本土へのフライトには、最新鋭のエアバスA350-900型機やA330-900neo型機を投入、快適性を追求した質の高いプロダクトとサービスを提供する。

**POINT 03** ニーズに合わせた4つの座席クラス  
個室タイプのビジネスクラスやプレミアムエコノミーなど



プライバシーを確保した個室タイプのビジネスクラス「デルタ・ワンスイート」



広めのレッグルームと優先サービスでワンランク上の快適さを提供する「デルタ・コンフォートプラス」



標準的な快適さを備えた「メインキャビン」

プレミアムエコノミー  
「デルタ・プレミアムセレクト」



上質な空間とサービスで快適な旅を約束する

シートピッチ最大38インチ(約96.5cm)の広いスペースに深いリクライニング、可動式レッグレストとフットレストを備えた快適なシート。またチェックインや搭乗、保安検査場(一部空港)、手荷物取り扱いなど、「スカイプライオリティ」の各種優先サービスを受けることができる。アメニティキットやノイズキャンセリングヘッドセットも提供。機内食の事前予約サービスもスタートした。

**POINT 04** 羽田空港「デルタ スカイクラブ」  
米国航空会社で唯一の自社ラウンジ



総座席数230席、延床面積867㎡の広々とした空間。作りたての食事が味わえるビュッフェコーナーや眼の前で調理するヌードルバー、フルサービスのバーカウンター、シャワールーム(5室)、ワークブースなど設備が充実。ほぼ全座席に電源を備え、高速Wi-Fiでビジネス対応も万全。

**POINT 05** 有効期限のない「デルタ スカイマイル」



デルタ航空のマイレージプログラム「デルタ スカイマイル」は、獲得したマイルの有効期限がないので、期限を気にすることなくマイルを貯めることができる。貯まったマイルはデルタ航空のフライトをはじめ、スカイチーム加盟航空会社のフライトにも交換可能。またスカイマイルに登録すると、米国内線でのWi-Fi接続が無料となるのもうれしいサービスだ。

## イタリア高級ブランド「ミッソーニ」のアメニティキットを導入

ビジネスクラス「デルタ・ワン」に導入したミッソーニのアメニティキットは、ジグザグ模様のミッソーニらしいデザインのパouchに、オーストラリアのスキンケアブランド「グロウン・アルケミスト」のスキンケア製品、環境に配慮した竹製の歯ブラシと歯磨き粉、アイマスク、耳栓、靴下、ペンが入っている。なお、プレミアムエコノミークラス「デルタ・プレミアムセレクト」では、引き続きサムワ・サムウェア製のアメニティキットを提供する。



## 全クラスでミシュランシェフ監修の和食メニュー スターバックスのコーヒーをサービス



日本発着フライトの機内食では、ミシュラン★獲得の和食店「一汁二菜うえの」(大阪府箕面市)の上野法男シェフが監修した和食メニューを用意。季節ごと\*に趣向を凝らしたメニューは、全クラスで味わうことができる。また、デルタ・ワンとデルタ・プレミアムセレクトでは、事前の機内食予約サービスを提供。さらに、機内ではスターバックスの香り高いコーヒーをサービスする。

\*メインキャabinは半年ごとにメニューを変更

## 座席指定やグッズを進呈 国際交流・姉妹都市プログラム

6名以上の団体を対象に、まとまったエリアの座席指定(空き状況による、一部制限あり)やオリジナルグッズのプレゼントなど、デルタ航空だけの特典を提供。学生団体向けには、同様の「学生団体プログラム」も用意している。詳しい内容や申し込みについては旅行会社まで。



## 持続可能な未来へ サステナビリティへの取り組み

デルタ航空は、2050年までに二酸化炭素排出量の「ネットゼロ」達成を目指し、さまざまな取り組みを進めている。2030年末までにジェット燃料の



10%を持続可能な航空燃料(SAF)に置き換える目標を掲げ、退役予定のボーイング767型機と比べ、燃料効率が20%アップするエアバスA350-1000型機を2026年より20機導入する予定。またアメニティキットや寝具のビニール包装をなくし、カトラリーや歯ブラシを竹製品に変更することで、年間約2200トンの使い捨てプラスチックを削減。持続可能な航空業界の未来に向けたリーダーシップを発揮している。

## プロゴルファー吉田優利選手の オフィシャルエアラインに



デルタ航空は、プロゴルファーとして活躍する吉田優利選手とオフィシャルエアライン契約を締結した。この契約に基づき、デルタ航空は今年米国女子ツアー

の出場権を獲得した吉田選手の移動をサポート。また吉田選手は、デルタ航空のブランドアンバサダーとして、背中にデルタ航空のロゴが入ったウェアを着用し、同社のキャンペーンや販促活動に参加、吉田選手が登場する動画も現在公開中だ。

[www.youtube.com/watch?v=lfxbFw5p77A](http://www.youtube.com/watch?v=lfxbFw5p77A)



## デルタ航空公式 日本語ソーシャルメディア



日本語公式Facebookとインスタグラムでは、アメリカ各地の魅力や最新の機内サービス、キャンペーン情報など、スペシャルなコンテンツを提供。ぜひフォローを!

## スムーズなご旅行をサポート Fly Deltaアプリ



フライトの予約・変更はもちろん、座席の指定、チェックイン、預け入れ荷物のリアルタイムでの追跡など、さまざまなシーンで利用できるアプリ。フライト前にダウンロードをしておくと便利。



# デルタ航空で羽田から全米各都市へ

デルタ航空はプロゴルファー 吉田優利選手をサポートしています。



KEEP CLIMBING



カリフォルニア観光局は、「遊び(=旅行)」が持つポジティブな力を通じて、多彩な体験ができるカリフォルニアを「最高のプレイグラウンド(遊び場)」として訴求するキャンペーンを展開している。このキャンペーンでは、8つの「プレイスタイル」を設定し、それぞれのスタイルに合ったカリフォルニアの楽しみ方を提案する。遊びがもたらすポジティブなエネルギーを感じながら、自分のスタイルで「最高のプレイグラウンド」カリフォルニアをとことん楽しみたい。



# カリフォルニアは「最高のプレイグラウンド」

## 自分のスタイルでとことん楽しもう!

### 8つのプレイスタイル



**アーティスト**  
 ・クリエイティブ  
 ・独創的  
 ・直感的



**コレクター**  
 ・几帳面  
 ・決断力  
 ・情熱的



**コンペティター**  
 ・意欲的  
 ・ダイナミック  
 ・熱心



**ディレクター**  
 ・集中力  
 ・リーダーシップ  
 ・自信



**エクスプローラー**  
 ・好奇心旺盛  
 ・冒険心旺盛  
 ・オープン



**ジョーカー**  
 ・ユーモア  
 ・社交的  
 ・おおらか



**ムーバー**  
 ・エネルギー  
 ・健康的  
 ・アクティブ



**ストーリーテラー**  
 ・想像力豊か  
 ・積極的  
 ・思慮深い



**CHECK!**  
 あなたは  
 どのプレイスタイル?

### どんなプレイスタイルでも楽しめる! プレイスタイル別の旅の楽しみ方の一例



#### ヨセミテ国立公園

世界自然遺産のダイナミックな大自然、アクティビティも充実

- ハイキングやサイクリングで雄大な大自然をアクティブに堪能
- 美しい風景を前に、絵画や写真など、湧き出る創作のインスピレーション



#### ロサンゼルス

あらゆるエンターテイメントが集結するビッグシティ

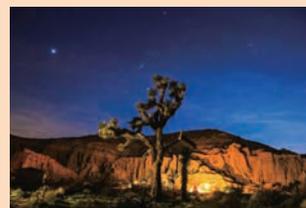
- MLB観戦など、スポーツ観戦で心躍るエキサイティングな体験
- ワールドクラスのコメディシーンに触れ、エネルギーあふれる時間を過ごす



#### ナパバレー

美しい風景が広がる世界的にも評価の高いワイン生産地

- ワイナリー巡りにワイントレイン、絶品ワインに出会う旅
- ワイナリー巡りや極上リゾートでの滞在など、パーフェクトな休暇を満喫



#### パームスプリングス

砂漠の中のリゾート、音楽や建築、スポーツなど多彩な魅力が凝縮

- ゴルフやテニス、名プレーヤーたちの熱戦を間近で体験
- 音楽フェスやミッドセンチュリー建築など、ここでしか体験できない魅力を発見



#### セントラルコースト

絶景が広がる「パシフィック・コースト・ハイウェイ」を走る

- 壮大な風景を感じ、地元のアートシーンに触れる旅
- みんなが楽しめる完璧なロードトリップを計画



#### ルート66

砂漠地帯を貫くアメリカの伝説的ハイウェイ

- 世界一大きい温度計など、風変わりなユーモアあふれるスポットを訪問
- アメリカ開拓者たちの歴史が息づくルート66の物語に触れる旅



#### サンタバーバラ

心地よい潮風が吹く、風光明媚な「アメリカン・リビエラ」

- サーフィンやSUP、ヨガなど、ビーチでアクティブに楽しむ
- 印象的なスペイン風の建物が残るこの町の歴史を追体験

visit  
California

カリフォルニア観光局

visitcalifornia.com/jp

# 日米間双方向の観光交流促進に向けて

## 日米観光交流年における日本旅行業協会(JATA)の取り組み

日本旅行業協会(JATA)は、日米観光交流年の期間中、さまざまな取り組みを通して、日米間の双方向による観光交流の促進に努めている。特に、日本からアメリカへの旅行需要の完全回復を目指し、姉妹提携を結ぶ日米自治体間の交流拡大や、若年層の需要促進を目的とした施策など、新しい取り組みを進めている。ここでは、日米観光交流年におけるJATAの取り組みについて紹介したい。



「日米観光交流年」調印式の様子  
(左:ラーム・エマニュエル駐日米国大使、右:齊藤鉄夫国土交通大臣)

### 日米観光交流年



U.S. - JAPAN  
TOURISM YEAR 2024

日米観光交流年2024

コロナ禍で落ち込んだ双方向の観光交流の回復と拡大を目的に、日米両政府は初めての試みとして、2024年1月から2025年3月までを「日米観光交流年」と制定。両国の官民観光関係者(日本側:国土交通省観光庁、日本政府観光局(JNTO)、JATA/米国側:米国商務省、在日米国大使館、ブランドUSA)が密接に連携し、旅行、観光、文化交流促進に向けたさまざまな活動を展開している。なかでも大きな取り組みとして期待されているのが日米自治体間の交流事業。日本とアメリカの間には、464の姉妹都市提携があり、観光交流年を契機に、地方レベルでの交流再開をサポートしている。

### 日米観光交流年ロゴ&グッズ

#### 日米観光交流年ロゴの活用 グッズを作成、団体交流の促進に

JATAでは、ウェブサイトやSNS、パンフレットや新聞広告、旅行説明会など、さまざまな場面において、「日米観光交流年2024」ロゴの積極的な活用を広く呼びかけている。ロゴは、所定の登録フォームからの申請が可能だ。

##### ●ロゴマーク申請用登録フォーム

[form.qooker.jp/Q/auto/ja/24USATourismExchange/2024JU](http://form.qooker.jp/Q/auto/ja/24USATourismExchange/2024JU)

またロゴ入りのノベルティグッズ(ピンバッジ、ジッパータグ)を製作。2024年度(2024年4月~2025年3月)中に訪米する団体向けに無償提供している(送料もJATA負担、在庫がなくなり次第終了)。ジッパータグは、片面に「日米観光交流年2024」のロゴ、もう片面に「海外旅行自由化60周年」のロゴを掲載。必要な際は、申込用登録フォームから必要事項を入力の上、申し込みが可能だ。

##### ●申込用登録フォーム

[form.run/@jata-koryu2024](http://form.run/@jata-koryu2024)

なお、対象となるエリアはアメリカ合衆国50州と5準州で、アメリカ本土だけでなく、ハワイやグアム、サイパンも対象となる。またJATA会員旅行会社の手配が条件で、個人型旅行(募集型企画旅行)は対象外となる。

ロゴの積極的な活用とロゴ入りグッズの作成は、交流年の認知度アップと団体交流促進が大きな目的。特に、団体の参加者が実際にピンバッジやジッパータグを着用、携行している様子を各種SNSに積極的に投稿してもらうことで、さらなる認知度アップにつなげたい意向だ。

実際に2024年度において、JATAが確



認するところで姉妹都市交流再開については、約600名、また学生交流については約2000名に上るとされており、今後さらなる上積みが見込まれると期待されている。

## IPW2024での取り組み

### 「IPW2024」で現地視察研修を実施 シンポジウムも開催、観光庁長官らVIPが出席

今年はカリフォルニア州ロサンゼルスで5月4～7日に開催されたアメリカ最大のトラベルトレードショー「IPW」(主催;USTラベル・アソシエーション)だが、日本からは前年の倍以上となる旅行会社47名とメディア26名が参加。日米観光交流年に合わせ、日本の存在感を示した。



ロサンゼルスで開催された「IPW2024」に参加した日本からの旅行会社バイヤー

JATAでは「IPW2024」に合わせ、現地視察研修を実施、アメリカツアーの造成や営業などに関わる8名が参加した。研修では、IPW2024参加の他、日本人選手の活躍で人気を集めるMLBの試合観戦(ドジャース対マーリンズ)やドジャーススタジアムの視察を旅程に盛り込んだ。

研修参加者からは、「アメリカについてはドジャース戦観戦ツアーの



研修視察では日本人選手の活躍で人気のドジャーススタジアムを見学

人気に支えられているのが現状。他チームの観戦ももっと売っていききたい」「野球観戦以外の観光周遊ツアーは、原価高でツアー代金が上昇。ヨーロッパなど他のデスティネーションと比較され苦戦している」など、どのようにアメリカを盛り上げていくべきか、さまざまな声が寄せられた。

またIPW2024に合わせ、日米観光交流年に関するシンポジウムを開催。日本からは、観光庁長官(当時)の高橋一郎氏、JATA理事長の蝦名邦晴氏、JTB社長の山北栄次郎氏らVIP デレゲーションとして参加した。シンポジウムでは、蝦名氏が日本発アウトバウンドの状況についてプレゼンテーションを行ったほか、米国側の要人との意見交換、IPW2024の視察、交流イベントにも参加した。



日米観光関連VIPが集まったシンポジウムの様子

## アメリカ旅行企画コンテスト

### 学生対象に「アメリカ旅行企画コンテスト」実施 若年層の海外旅行需要喚起にも

日米観光交流年に合わせ、JATAでは学生(全国の大学、短期大学、専門学校に在籍する学生)を対象とした「アメリカ旅行企画コンテスト」を実施。日米間の相互観光往来の回復と拡大だけでなく、学生からアイデアを募ることで、若年層の海外旅行需要喚起に向けた施策となる。

コンテストでは、「学生の斬新な発想で、同世代の若者のアメリカへの旅行需要を新たに創出、もしくは喚起することのできる実効性のある」旅行企画を募集。時期は2025年1～12月の出発を想定、エリアはアメリカ50州及び5

準州(アメリカ本土だけでなく、ハワイやグアム、サイパンなども含む)が対象となる。

既に応募は締め切られており、応募総数は計73件に達した。1次、2次審査を経て優秀企画を6点選出、8月5・6日には、優秀企画の学生と、ブランドUSA、ビジットUSAコミティジャパン会員と企画ミーティングを実施。現在、優秀企画者の学生たちは、アメリカのプロからの貴重な意見を受け、企画内容を一部練り直し、最終審査会に向けて準備を進めている。

「ツーリズムEXPOジャパン2024」期間

中の9月27日には、公開プレゼンテーションと最終審査会を開催、優秀企画の中から最優秀となるグランプリと各賞(準グランプリ1点及び審査員特別賞1点)を決定するスケジュールとなっている。

なお、グランプリ受賞者には、副賞として、応募企画観光地までの旅行費用最大50万円までのサポートと、本コンテストに協賛するANAより、成田一ホノルル間(A380 FLYING HONU)の往復エコノミークラス航空券(最大2名分)を提供する。

## JOTC Webinars 2024

### オンラインでの情報提供も

JATAでは、海外旅行促進活動の活性化を図ることを目的に設立したアウトバウンド促進協議会(JOTC)の活動の一環として、ウェビナー「JOTC Webinars」を定期的で開催している。2024年度は5月に「定番を知る」、8月に「観光局・大使館のおすすめ日程」をテーマに実施。今後は11月と2～3月に実施す

る予定だ。

アメリカ方面は、毎回1日かけて実施。ビジットUSAコミティジャパンを軸に、ブランドUSAやビジットUSAコミティジャパンの会員である各地域の観光局、航空会社、レンタカー会社、サプライヤーが集まり、それぞれプレゼンテーションで最新情報を伝えている。

ウェビナーは、対面のセミナーとは異なり、場所を選ばず参加できるのが大きな強み。視聴する旅行会社スタッフは、首都圏のみならず日本全国にわたり、その担務もツアー造成・企画・仕入から団体営業、WEBなど多岐にわたっている。

# 来年は主要都市でセミナー 商品化を意識したFAMも計画



## ビジットUSAコミッティージャパン



アメリカ関連の観光局やサプライヤーで構成するビジットUSAコミッティージャパンは、来年初頭に主要都市でのセミナーを予定、また「実際の商品化を意識した」(田中映子会長)FAMツアーも計画したい意向を見せる。

ビジットUSAコミッティージャパン

田中 映子 会長

### 大阪、名古屋、福岡でセミナー 日米観光交流年の後押しにも

旅行会社スタッフを対象とした来年初頭のセミナーは、大阪と名古屋、福岡の3つの主要都市での開催を予定。ビジットUSAコミッティージャパンの会員である観光局、航空会社やホテル、レンタカー会社やアトラクションなどのサプライヤーから参画を募る。

田中会長は、「7月にブランドUSAのミッションが東京と大阪で行われたが、これをカバーする形で開催したい」と説明。特にコロナ禍を経て、旅行会社の担当者が変わっていることもあり、各都市の営業担当に告知し、改めてアメリカの魅力を訴求していきたい考えだ。

また今年は、特に日米観光交流年でもあることから、姉妹都市関係にある日米自治体間の交流事業の団体旅行の後押しにしたい意向もある。「地方自治体から視察や交流に関する問い合わせが増えていくと聞く。しかしながら予算面でアジアなど他の destinations に競合負けしている動きもある」とのこと。厳しい状況ながらも、セミナーを契機とした交流の活性化にも努めていく。

### 会員企業の協力で 州の枠を超えたFAM 周遊など

#### 「実際に体験し、商品化を検証」

FAMについては、会員である航空会社やホテル、観光局の協力を得て実施する計画。「旅費が高くなるなか、旅行会社のスタッフがリアルに体験してもらい、誰に売れるのか、商品が売れるのかなど、今後商品化できるかを検証できるような内容にしたい」という。

特に「ビジットUSAコミッティージャパンだからこそできる強みを活かす」とのこと。通常、観光局が企画するFAMはその州や都市



©Brand USA

などに限定されるが、例えば西部のワシントン州とオレゴン州、東部のニューイングランドとニューヨークなど、複数の州や地域にまたがる周遊プランとし、より「深掘り」できる内容にしたい意向だ。

### 旅行会社へ働きかけ 「四位一体」で現状を打破

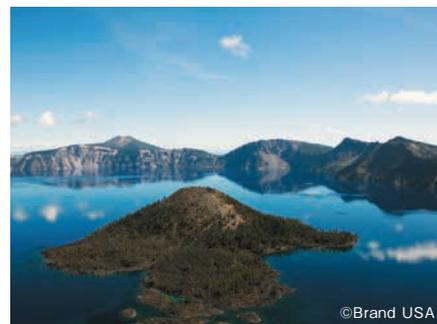
円安に加え、現地アメリカでの物価高により、日本からアメリカへの旅行需要は、また十分に回復していない状況にある。全海外旅



©Brand USA

行の回復率がコロナ前の2019年と比較して、現在7割まで回復する中でも、アメリカ方面はまだ5割程度、特に旅行会社の取り扱いでは「5割以下」となっているとのこと。

そんな中でも「旅行会社とどうやってタッグを組むか、旅行会社とビジットUSAコミッティージャパン、そしてブランドUSAと米国大使館商務局の四位一体となって今ある状況を打破していきたい」と意気込みを見せる。



©Brand USA

### 「ツーリズムEXPOジャパン2024」で 一般日にチャリティーオークションを開催



ビジットUSAコミッティージャパンは、「ツーリズムEXPOジャパン2024」の一般入場日である9月28日と29日の15時より、ブースで恒例のチャリティーオークションを実施する。ビジットUSAコミッティージャパン会員各企業が物品を提供。本チャリティーの収益は石川県能登及びハワイ州マウイ島での災害支援団体に寄付する予定だ。

アメリカ合衆国の首都ワシントンD.C.は、歴史、文化、コミュニティが独特かつ刺激的な形で融合する街だ。桜が咲き誇る春の美しい光景や、多様性と共生を祝う来年開催予定の「ワールドプライド2025」、そして注目の再開発地区「ザ・ワーフ」で開催されるジャズのソウルフルなリズムなど、ワシントンD.C.では訪れる人を魅了するさまざまな体験が待っている。ワシントンD.C.独自のイベントや伝統を探訪してみよう。



リンカーン記念館(写真)をはじめ、アメリカの歴史や文化を体験できるスポットが数多く点在するワシントンD.C.

# ワシントンD.C. 文化、多様性、音楽が織りなす活気あふれる街

## ワシントンD.C.の魅力を体験できるおすすめイベント

### 全米さくら祭り

毎年3~4月 ● 2025年3月20日 ▶ 4月13日

毎年春になると、ワシントンD.C.はソメイヨシノを主とした3000本以上の桜が咲き誇り、ピンクと白の美しい海に変貌する。

1912年に当時の尾崎行雄東京市長(現在の東京都知事にあたる)が桜の木を贈ったこと



に遡るこの全米さくら祭りは、アメリカと日本の文化を祝い、両国の変わらぬ友情を称える無料で楽しめるイベントだ。期間中は、カラフルな凧祭りや、音楽やグルメ、アート、花火など盛りだくさんの「ベタルパルーザ」、壮大なパレードなど、さまざまなイベントが開催される。

このイベントは、地元企業を紹介するだけでなく、訪れる観光客に日本文化を体験してもらうのにも一役買っている。ソメイヨシノの多くはタイダルベイソン周辺で咲き誇り、少し遅れて九重桜も楽しめる。ワシントンD.C.が提供する美しさや文化の豊かさを体験したい人には必見のイベントだ。

[nationalcherryblossomfestival.org](http://nationalcherryblossomfestival.org)

### DCジャズフェスティバル

毎年8月末~9月頭 ● 2024年8月28日 ▶ 9月1日

DCジャズフェスティバルは、ワシントンD.C.の文化的な象徴として20年間愛され続けているイベント。世界中から数千人の訪問者が訪れ、世界一流のパフォーマンスを楽しむ特別な週末となる。このフェスティバルは再開発地区「ザ・ワーフ」をはじめとするD.C.の各地で行われ、著名なジャズアーティストと新進気鋭の才能を紹介し、D.C.の豊かな音楽遺産を紹介する場にもなっている。



ワシントンD.C.はジャズ音楽の深い歴史を持つ街で、デューク・エリントンの生誕地だけでなく、ジャズ文化を長年にわたり育んできた。ダウンタウンのカーライル・ルームからキャピトルヒルのミスター・ヘンリーズまで、この街は何世代にもわたってジャズで活気にあふれてきた。

DCジャズフェスティバルは、この街の文化的構造を豊かにするだけでなく、年間を通じて無料の音楽教育プログラムを恵まれないコミュニティにも届け、ジャズがワシントンD.C.でインスピレーションを与え続けることを保証している。 [www.dcjazzfest.org](http://www.dcjazzfest.org)

### ワールドプライド2025

2025年5月23日 ▶ 6月8日

世界的な規模で多様性や平等、愛を祝う「ワールドプライド」。開催50年目の節目となる2025年は、ワシントンD.C.で行われる。世界中から約200万人が集まり、LGBTQ+コミュニティを称え、力強い一連のイベントを通じてその声を届ける。



オープニングセレモニー(5月30日)から幕を開け、スポーツフェスティバル(6月30日~7月4日)、音楽フェスティバル(6月6~7日)、そして象徴的なパレード(6月7日)など、さまざまなダイナミックなイベントが街全体で展開され、壮大なクロージングコンサート(6月8日)でフィナーレを迎える。

ワシントンD.C.の歴史的建造物を背景に開催される「ワールドプライド2025」は、多様性と一体感を象徴するイベントであり、年間を通じてLGBTQ+コミュニティへの支援を示すワシントンD.C.の姿勢を鮮やかに映し出すものとなるだろう。 [worldpridedc.org](http://worldpridedc.org)

## ワシントンD.C.観光局、 日本での活動をスタート



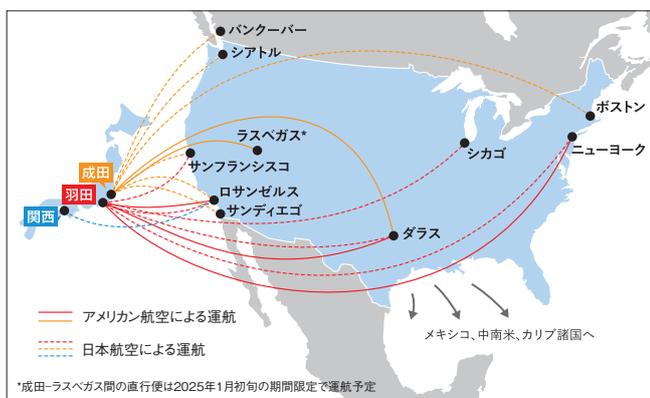
ワシントンD.C.観光局は、日本市場でのプロモーション活動を本格的に開始する。まず、10月15~18日には、東京で初のセールス&メディアミッションを実施。また、すみだストリートジャズフェスティバル(10月19・20日)では一般消費者向けイベントを実施。全米さくら祭りやDCジャズフェスティバルの情報も発信する。さらに大阪で開催予定の「IGLTAグローバルコンベンション(10月23~26日)」にも参加、一連の活動を通じ、日本市場での知名度アップを図り、2024年には日本からの訪問者数を前年比40%増加させることを目指す。 [washington.org](http://washington.org)

# 羽田—ニューヨーク線就航

日米間のネットワークがますます充実



北米はじめ250都市以上へアクセス  
豊富なフライトの選択肢



アメリカン航空は、日本からロサンゼルスとダラス・フォートワース、ニューヨークへ毎日5便運航。これらの空港を経由し、北米をはじめ、中南米の250を超える都市にアクセスできるのが大きな強みだ。また日本航空とのパートナーシップにより、北米各地への直行便も利用できる。

そのため、フライトの選択肢は豊富。行きたいエリア、出発したい時間帯に合わせたフライトのチョイスが可能で、さまざまなニーズに応えてくれる。

## 成田—ラスベガス線 2025年1月に期間限定で運航

2025年1月の期間限定運航となる成田—ラスベガス線は、世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2025 (Consumer Electronics Show 2025)」の開催に合わせた臨時便。ノンストップでラスベガスにアクセスできる。



アメリカン航空 成田—ラスベガス線 運航スケジュール\*

成田→ラスベガス			ラスベガス→成田		
便名	運航スケジュール	運航期間	便名	運航スケジュール	運航期間
AA616便	18:35/11:25	2025年1月4～12日	AA187便	11:35/16:35 (翌日着)	2025年1月3～11日

\*スケジュールは予告なく変更になる場合がございます。

## 羽田からニューヨークへ1日3便 運航時間帯に合わせて選べるフライト

アメリカン航空は、6月28日より羽田—ニューヨーク(ジョン・F・ケネディ国際空港)線の運航をスタートし、同区間を運航する日本航空のフライトを合わせると1日3便に拡大。各フライトの運航時間帯が異なるため、ニーズに合わせたフライトの選択が可能となり、より利便性が高まった。



アメリカン航空 羽田—ニューヨーク(JFK)線 運航スケジュール\*

羽田→ニューヨーク		ニューヨーク→羽田	
便名	運航スケジュール	便名	運航スケジュール
AA168便 (JL7010便)	17:10/16:25	AA167便 (JL7009便)	10:00/14:35 (翌日着)
JL006便 (AA8403便)	11:05/10:00	JL005便 (AA8402便)	12:40/17:15 (翌日着)
JL004便 (AA8496便)	19:45/18:40	JL003便 (AA8495便)	00:35/05:10 (翌日着)

\*スケジュールは予告なく変更になる場合がございます。

## ハブ空港ニューヨークJFKでは ワンランク上の洗練されたラウンジを

羽田からのフライトが発着するニューヨークJFK空港は、アメリカン航空のハブ空港のひとつ。改装したばかりのプレミアムラウンジは、Flagship®ビジネス(ビジネスクラス)の利用客だけでなく、AAAdvantage®プログラムの上級ステータス会員の利用も可能。ワンランク上の洗練されたラウンジとなっている。



## アメリカン航空のマイレージプログラム 「AAAdvantage®プログラム」



アメリカン航空や共同事業パートナーの日本航空、また1000以上の提携パートナーの利用でマイル加算が可能。貯めたマイルは、アメリカン航空や日本航空など、提携パートナー航空会社の特典航空券などに利用できる。

# 日本からアメリカへ

## 充実のネットワークと快適なサービス



### 羽田と成田、関西から全米各地へ運航

JAL北米線は、羽田、成田だけでなく、関西からも運航。国内線で日本各地から乗り継げるほか、パートナーであるアメリカン航空のネットワークで、北米はもちろん、中南米へもスムーズにアクセスできる。

JAL北米線運航スケジュール(2024年10月27日~2025年3月29日)

方面	発着地	便名	運航日
シカゴ	羽田	JL010/JL009	毎日運航
		JL012/JL011	毎日運航
ダラス・フォートワース	羽田	JL7014 (AA176) / JL7013 (AA175)	毎日運航
	成田	JL7012 (AA60) / JL7011 (AA61)	毎日運航
ボストン	成田	JL008/JL007	毎日運航
ニューヨーク	羽田	JL004/JL003	毎日運航
		JL006/JL005	毎日運航
サンフランシスコ	羽田	JL7010 (AA168) / JL7009 (AA167)	毎日運航
	成田	JL002/JL001	毎日運航
ロサンゼルス	羽田	JL058/JL057	毎日運航
		JL016/JL015	毎日運航
	成田	JL7016 (AA170) / JL7015 (AA169)	毎日運航
		JL7018 (AA026) / JL7017 (AA027)	毎日運航
シアトル	関西	JL062/JL061	毎日運航
サンディエゴ	成田	JL060/JL069	月・水・木・土・日
バンクーバー	成田	JL068/JL067	毎日運航
	成田	JL066/JL065	火・水・金・日
	成田	JL018/JL017	毎日運航

※スケジュールは予告なしに変更になる場合があります

Check!

羽田-ニューヨーク線、  
羽田-ダラス・フォートワース線は、  
最新鋭のエアバス  
A350-1000型機で毎日運航

### エアバスA350-1000で 快適な空の旅を

JAL国際線の最新の翼、エアバスA350-1000型機。  
お客さまひとりひとりに合わせた快適な空間で、JALの新しい空の旅がはじまる。

#### ここがポイント

##### ファーストクラス (6席)



- 扉付き個室座席
  - ソファ、シート&シングルベッド、ダブルベッド\*の3種モードをお好みで選択可能
  - 世界で初めてヘッドフォン不要のヘッドレスト内蔵スピーカーを導入。ベッドモードでも快適に視聴ができるヘッドレストのリクライニング機能も装着
  - 個室内に設けたワードローブ・手荷物収納スペースによるストレスフリーな環境
- \*座席を全てベッドモードにした状態

##### ビジネスクラス (54席)



- 扉付き個室座席
- 長さが約198cmになるベッドモード。ヘッドレストのリクライニング機能で寝ながら快適に機内エンターテインメントが視聴可能
- 世界で初めてヘッドフォン不要のヘッドレスト内蔵スピーカーを導入
- 個室内に設けたワードローブ・手荷物収納スペースによるストレスフリーな環境

##### プレミアムエコノミークラス (24席)



プレミアムエコノミークラス  
世界一を獲得\*

\*2024年SKYTRAX社による

- 新規に大型プライバシーパーティションを設置
- 世界で初めて、プレミアムエコノミークラスで電動リクライニング機能

##### エコノミークラス (155席)



「ベスト・エコノミークラス・エアラインシート」賞を  
7期連続受賞

\*2024年SKYTRAX社による

- 足元ひろがる、「ベスト・エコノミークラス・エアラインシート」の快適性を継承
- 従来比で約1.3倍サイズの13インチ4K大画面モニター設置

##### 機内エンターテインメント

全クラスに4Kモニター搭載、  
Bluetooth接続で手持ちの  
ワイヤレスヘッドホンから楽しめる



事前にJALアプリで映画や音楽のお気に入りをリストを作成し、機内で簡単に再生できる。15言語に対応、視覚サポートも

# もっと多くの目的地で、最高の旅へ出かけよう。

アメリカン航空と日本航空のパートナーシップにより、太平洋路線に選択肢が増え便利に



\*2024年9月16日現在の情報です。

アメリカン航空、American Airlines、尾翼デザイン及びフライトシンボルは、アメリカン航空が所有する登録商標です。  
 アメリカン航空、日本航空、oneworld は各社の商標です。

© 2024 American Airlines, Inc. All Rights Reserved. (無断複写・転載を禁じます)